公民館報

おがわ

小川村ふるさと通信

No. 241
（2026 年秋号）



（写真　小川写友会）

・ここに生まれた
・小川に生きる
・おがわ耳より情報（小川村観光パンフレット）
・小川村文化協会 30 周年記念旅行
・講座紹介
・図書室だより
・撮る村（そん）
・公民館報お料理レシピ
・絵手紙教室作品



ここに生まれん



人生は夢だらけ

池田　佳織（城ノ峰）

２０２５年10月18日、３７９４ｇのちょっと大きなプリティーガールが我が家に新加入しました。初めて私たちのところに来てくれた子だから『初來（そら）』。

緊急帝王切開になるなど、例に漏れず色々あったお産でしたが、「あぁ、本当に人間が私の中にいたんだ」という驚きと、「無事生まれてきてくれた」という安堵と、「これからどうしよう」という不安が一気に押し寄せてきたことをよく覚えています。



12月10日、小川村に帰ってくると、すっかり季節が変わっていました。寒いけどこのピリッとした空気が大好きで、あぁ冬だと実感しました。

久しぶりの我が家、３人と３匹、子育て本番が始まりました。母１年目、父１年目、そして人間１年目。

右も左もわからないけれど、とにかく生かさなければならない、なんなら犬の散歩にも行かなきゃいけない、猫も久しぶりじゃないか、構ってくれよと鳴いてくる。あっという間に手一杯になって、涙で枕を濡らす日々が始まりました。

母親に向いていないのかもしれない、小さなことで悩んでは、ネットで検索し、流行りのChat GPTに聞いたりして、あんなに大切だった犬たちにも優



しくできなくて、もうダメだと何度も思いました。
でも、そんな時ちょっと踏ん張って、雪の中みんなでお散歩に行ったりすると、景色が綺麗で、うんと静かで、痛いほど冷たくて、あぁ私も生きているし、この子も生きている。大丈夫だ。と思えたりしました。
暖かい風が吹き始め、桜が咲く頃には、心のモヤモヤも自然と解消され、ご近所さんと娘を抱っこしながら外でおしゃべりすることが癒しの時間となりました。自然の力にはどんなサプリメントも敵いません。
東京を離れようと決めた時、もう少し人間らしく生きたいと思いました。満員電車に揺られ、日付が変わる頃まで仕事をし、泥のように眠って、土日も仕事をして、月曜日また会社に行く、そんな日々が好きな瞬間もありました。でもやっぱりこの村に来て、生きる、ということを再確認したような気がします。





初來にも、生きることを楽しんでほしい、心を豊かに、温かく、優しく、そして、何かあっても自分で立ち上がる強さを持って欲しい。そう願っています。私たちがいろんなことを言葉で教えるより、犬と猫とそしてこの自然が、初來にいろんなことを教えてくれそうです。
いつの間にか季節は巡り、もうすぐ初來にとって2度目の冬がやってきます。何もできず、天井を見つめていた子も、自分で動き、立ち上がり、歩き始めました。最近は意思表示もたくさんするようになってきて、嬉しい時は笑い、嫌な時は全力で泣きます。母は相変わらずてんやわんや。もうすぐ保育園も始まるので、メキメキ成長するのかな、どうかな、大丈夫かな、どこまでいっても不安は無くなりそうにありません。
家族は3人と2匹に減ってしまったけれど、スクラム組んで、これからの人生をみんなで楽しみたいと思っています。

小川に生きる

三水　亜矢さん（二反田）

「身近にあるものを宝に変えていき里山ぐらしを満喫したい」そう話す三水亜矢さんのこれまでの人生は自分探しの旅でもありました。

ご両親が昭和30年代にブラジルで10年間農園を営んでいた時に生まれ5歳までブラジルで生活。亜矢さんの小学校入学に併せ日本に帰国。高校卒業までご両親の実家がある山口県で過ごし東京の大学に進学。卒業後は一旦山口に戻り就職したものの1年で退職し再び東京に戻り製菓材料メーカーに就職。商品開発や営業職で全国を飛び回る生活をしていました。25歳になった頃、女性が社員として働く大変さを感じ、手に職をつけて仕事ができないと思い、ここから三水さんの自分探しの旅が始まりました。



まず、果樹園を営む実家でオーベルジュ（宿泊施設を備えたレストラン）をしようと考え、そのために製菓材料メーカーに勤めながら週1回渋谷のビストロで仕事を無給で経験。そこで自分には料理をしながらサービスを提供するのは難しいと実感しその後、縁あって松本市へ。都内の製菓材料メーカーの仕事も続けつつ地元との繋がりを作るため花屋やレストランなどのお手伝いをしたそうです。ある時、山口で農園を経営していたお父様から三水さんに洋梨の生産者に話を聞いて欲しいと相談があり、持ち前の行動力で県内の洋梨を生産している農家を訪れ、洋梨と言えばラ・フランスくらいしか知らなかった三水さんは洋梨にも5～10種類も品種があることに驚いたそうです。同時に、以前勤務した菓子業界でこだわったシェフは素材から自分で味付けしたいと要望されていたため、これが今の仕事をするきっかけに。こうして34歳の時に松本で起業し、自ら足を運び、口にした新鮮で美味しい農産物を菓子業界やレストランのシェフに利用してもらえたらとの思いで「旬の農産物を生産者から直送」事業を始めました。食べること、旅することが好きな三水さんにとってそのどちらもできる魅力的な仕事です。当初は個人事業主「グランジャヤマネ」とし

て事業を展開。事業を継続していくにあたり会計を学ぶ必要性を感じ会計事務所で4年ほどアルバイトをし簿記資格も取得したそうです。

そして、38歳の時に「有限会社グランジャ」を設立。一旦山口県に戻りますが縁あって40歳頃に小川村へ。以降、小川での里山の生活を満喫しつつ事業も順調に継続されています。その背景にはご主人の存在も大きいようです。「夫は私のすることを駄目だと言ったことはありません。いつも応援してくれて、時にはアドバイスもくれます。頼りになります」と感謝されています。



「色々なことを自分だけで考えては思いつきません。多くの人に出会って新しいことが生まれると思います」と、人との出会い繋がりを大切にしている三水さんは、今年6月に「挑戦したい人に気軽に使ってもらいたい」と起業したい人のためのスタートアップの機会、きっかけづくりの場として二反田に「里山ぐらし」をオープン。「里山ぐらし」には素敵なシェアキッチンやセミナーなどに利用できるシェアオフィスがあります。建物は「里山」にも色々なライフスタイルがあることをアピールしたくてモダンな作りにしたそうです。

また、毎年、中学校3年生の卒業祝いとして、お世話になっている長野市内のレストランに子どもたちを招待しています。「里山で得た収益を里山の子どもたちにお返ししたい」との思いから始まったこの事業も今年で10年目。費用は全て小川で自ら収穫した山菜を販売した収益で賄っています。

社会に出た時に子どもたちの自信にもつながるようにエールを送れたらと、単に食事をするだけでなく、レストランスタッフより子どもたちにテーブルマナーについて教えていただいたり、レストランオーナー、スタッフの方に話をしていただいているそうです。

「新しい出会いは新たな学びにもつながります。いつまでも元気で輝いた人生を送るためには、やりたいこと、やれること、夢をみつけてそれを形にしていくことが大切」とこれまでの人生で色々な経験（学び）をし、多くの方と出会った三水さんの言葉はとても重く響きます。これまで里山の多くのお宝を輝かしてきた三水さん。これから見つける新たなお宝をいかに輝かせていくか三水さんの挑戦は続きます。

（三水　恵）

おがわ耳より情報

小川村観光協会の発行する観光パンフレットが今春、13年ぶりに刷新されました。「むら旅―信州小川村案内」と銘打たれた15ページの冊子には、村の名所旧跡、飲食店、宿に関する観光情報が、親しみやすいイラストマップや豊富な写真とともに紹介されています。今回は、冊子の取材・編集を担ったフリー編集者の大沢綾子さん（大久保）にお話を聞きました。

Q 前回の観光パンフ「信州小川村案内手帳」も大沢さんが編集されたのですよね？

A **2013年、私が小川村に移住してきたタイミングで作りました。赤ちゃん（長女・結さん）を抱っこしながら、編集会議に出ていた記憶があります。今回、村政施行70周年のタイミングで、再びパンフを作ることになり、前回の縁もあって声をかけてもらいました。2025年春から動き始めて、1年かけて出来上がりました。**

Q 大沢さんは過去に編集の仕事をしていたのですか？

A **最初は、長野Komachiという情報誌で、編集者として働きました。新聞社出身の男性編集者にすごく鍛えられました。そこで出版や印刷、デザインのことを勉強しました。その後、独立して、仲間と善光寺近くの一軒家を借りて、編集室と喫茶店とギャラリーを兼ねるようなことを始めました。みんなで一緒に本を作ったり、新聞をつくったり。その時期、タウン誌の企画で小川村に取材に来ることがあって、今の旦那（収さん）と知り合い、そのご縁で2011年に村に移住しました。**

Q 取材はどのように進めたのですか？

A **村の中にあるものを全部リストにして、一から順にあたって、掲載OKのところは全部載せることにしました。財源が観光協会だから、加入事業者を優先的に載せるのが通常ですが、今回は「それじゃあ面白くない」と、コアな内容も含めて、みんな載せようという話になりました。情報を羅列するだけではつまらないから、編集の際、「何ページのどこにこれを入れる」とか、組み合わせのパズルがちょっと難しかったですね。**



ご本人とパンフ

Q 目を引くのが、各所に挿入されたイラストマップです。手書きですか？

A はい。鉛筆で下書きして、その上からペンでなぞる。それだけ。誰でもできます（編注：できません笑）。1時間もあれば、このMAP一枚書けます。字も手書きです。慣れてるから書き直しも特にしない。手書きは鍛えられていますね。

Q イラストの技術は、どこかで学んだのですか。

A 独立して編集をしていたとき、お金がかかって人にお願いできないから、じゃあ自分で描くしかないと始めました。心をこめて書いているけど、よく見ると、絵は下手だから見てみてください（笑）。

Q 前回の「案内手帳」は人に焦点を合わせた記事が多い印象です。今回は、観光情報が満載です。

A 前回のパンフでは「すごく内容はいい、だけど使いにくい」と言われたことがある。村の雰囲気はつかめるけど、実際に行動できないと。次の機会があれば、実際に使える観光パンフ的なものを作ろうと思っていました。フラッと村に来た人が、冊子を見て、「今すぐ行けるところは？」と気軽に探せる感じで。村内の人にとっても村を見直す、再発見できるような冊子になったらいいなと思います。



むら旅
信州小川村案内の1ページ

Q 取材を通じて印象に残ったことは？

A お店を中心に取材して一番感じたのは、お店の人が日々営業してくれているおかげで、村に活気や元気を生み出してくれているということです。取材で、よく知っている人、知ったつもりの人と話している中で、何度も涙することがありました。店の長い歴史を聞くと、その存在がより身近になって、今までと違った感じに思えるようになりました。今回、苦労したこともあったけど、こういう機会をいただき感謝しています。

「むら旅」は村内外の観光施設、役場などで配布されています。観光協会ホームページからダウンロードすることもできます。お手元に置いて、村のみなさまにも日常的にご活用いただければと思います。

ダウンロードは
こちら

（中村雄弥）

小川村文化協会 30周年記念研修旅行

9月8日、小川村文化協会の研修旅行に行ってきました。私は多世代、所属グループが一堂に会するこの旅行が大好きで、毎年参加しています。

小川村文化協会は、私が生まれる前の平成9年に設立され、今年で30年目を迎えました。

研修旅行は毎年企画されていますが、今回は30周年という記念すべき年ということで、県外、富山県へ行ってきました。

まずは今回の旅行のメイン、曳山会館での「おわら風の盆」。おわら保存会の方々による伝統の楽器演奏に合わせたしなやかな踊りを貸切の会場で満喫しました。


風の盆

おわら風の盆とは、八尾に伝わる民謡「越中おわら節」に合わせて踊る郷土芸能です。本番は25歳までの男女しか踊ることができず、八尾出身の方は、八尾を出た町の方も、この日のために里帰りするそうです。

「おわら」とは、大笑いや大きな藁になるという意味から来ていると言われています。台風がよく来るこの季節に合わせて行われる行事で、風害を鎮めて五穀豊穣を願うことから、「風の盆」と呼ばれています。

踊りは農作業を表現した力強い男踊り、しなやかで繊細な女踊り、男女で踊る豊年踊りの3種類に分けられており、年々受け継いで、今年で97年目とのこと。

その他にも曳山会館には、行事の際に実際に使用される華やかで豪華な装飾がされた曳山の展示や、全国の蚕種の生産量四分の一を占めた時代もあったというほど盛んだった、八尾の養蚕業の歴史展示も見学することができました。

曳山会館の外では石畳と白壁、格子戸、歴史ある木造町家が並ぶ、「日本の道100選」に選ばれている道の散策（諏訪町本通り）も楽しみ、八尾の町に伝わる歴史と芸術、そして「おわら風の盆」に対する住人の熱い情熱を感じました。

続いて昼食。富山湾の近くにある、美喜多寿司で富山湾寿司をいただきました。マグロ、あじ、イカ、カニなどのお寿司、そして富山名物白エビのお寿司を堪能しました。白エビのお寿司は甘くて口の中でとろける味わいでした。

最後に海王丸パークへ行き「太平洋の貴婦人」と称された帆船のダイナミックな外観を観覧しました。


富山のお寿司

この海王丸という帆船は船員を育てるための練習船で、今までに１０６万海里(地球約50周分)を航海し、この帆船から育った船員は一万人を超えるそうです。そんな歴史的な帆船の前で、集合写真を撮りました。

続いては皆が楽しみにしていたお土産、お買い物タイム。まずは、新湊きっときと市場。10店舗ほどの店が連なり、その中でも名物の白エビソフトクリームは、エビの香りが豊かで、ソフトクリームを食べているのか?白エビを食べているのか分からなくなるような、一口食べればそこは富山県と感じられる味わいでした。

最後の通過地点、有磯海ＳＡでは沢山の種類の押し寿司を選ぶことができ、様々なお魚の種類、製造元の商品があり、まんまるの鱒寿司から始まり、小さく一口サイズに分けられ、笹の葉、柿の葉で巻かれたものもあり、好みのものを選ぶことができました。購入した鱒寿司を夕飯でいただき、家に戻ってからも旅の余韻を楽しみました。

バスの車内は終始笑顔と談笑する声に溢れており、また添乗員の坂井睦さん（小川村在住）の、行く先々での豆知識はとても勉強になりました。

目的地はもちろん、私はバスに乗っている移動時間が大好きです。初めての方との会話などとても有意義な時間となりました。



白エビソフト



文化協会の仲間で

文化協会は現在26グループが所属し、全会員は２００名以上いますが、皆さんと顔を合わせる機会はほとんどありません。

今回の参加者は30人、「こうやって他のグループの方と話ができて、顔を合わせられて嬉しい」、「その活動素敵だね」、「お互いにまた頑張ろうね」そんな声が聞こえました。

小川村文化協会は「自主的な文化活動を通して、会員相互の親睦と研修を深め、豊かな人間性を養い、村民文化の向上を図り、生きがいのある地域社会の実現」を目的としています。

この旅行を通して、他の地域の歴史や文化・芸能に触れ、目的達成に向けてまた一歩前進し、文化協会の会員の友好も更に深められたように感じます。

私も文化協会の会員の1人として、今回の研修旅行で受けた刺激を大切にして、積極的に活動していきたいです。

小川村の文化活動をつなぐ小川村文化協会、これからのますますの活躍が楽しみです。

（下薗彩佳）

公民館講座紹介

マジック教室

ユーモアで温かい人柄。受講生にも粘り強く優しく教えてくれる、スマイリー山上先生（長野市）のマジック教室が始まりました。

「えー?なんでー?」破れたはずの新聞が元に戻ったり、穴を開けたはずのティッシュペーパーに穴が開いてなかったり！

マジックは、手先も使えば頭も使う。もちろん手先の技術も必要となりますが、観客の注意をひき、演者に向かせる話術も必要となります。先生のマジックの実演を見ていても、普段テレビでマジックを何気なく見ていても、あまり意識していませんが、あっという間に引き込まれます。ちょっとしたユーモアや注意を逸らせる言葉遣いなど、いざ自分でやってみるとなると、人前という緊張感もありますが、とても頭を使います。

受講生は、小学生からシニア世代まで7名で始まりました。はじめは照れていた受講生も慣れるにつれ、だんだん人前が怖くなくなっていくように見受けられます。新聞マジック、カードマジック、数字マジックなど、皆でわいわい学んでいます。あなたの隣にもマジシャンが出現するかも⁉



真剣な眼差しで



講師の山上先生

フラダンス教室

「初めてのフラダンス！ゆったり踊って体幹すっきり！」をキャッチフレーズに金曜夜の部9名と土曜午前の部6名の計15名の受講生を迎え、フラダンス教室が始まりました。

ハーラウ　ナ　レイ　オナー　プアナニヨシコフラダンススタジオから、インストラクターの宮澤博子さん（長野市）を講師としてお迎えしました。

始めは基本の足の動きから入り、そこに手の動きが加わり、受講生はパニックに（笑）。腰を振っているように見えて実は腰は振らないんです。

「難しくて踊れるようになるかわからないけど、楽しい。最後まで頑張るわ」と声をかけてくれた受講生や、「頭から煙が出そう」「先生のように柔らかい動作ができなくて、どうしても固くなっちゃう」など、たくさんの声が聞こえてきます。

先生は優しく諭してくれます。「なんでも慣れですよー。普段歩きながら手を動かしたり、頭を動かしたりは無意識でできます」。

ゆったりした動きだけど、汗もでますし、頭も使います。休憩時間のちょっとしたおしゃべりもいいですね。

つどう。学ぶ。つなぐ。公民館では、今後も講座や教室を開催していきますので、皆様からのご意見もお待ちしております。

（主事）





図書室だより

小さな木の実

第122号
図書委員会

ご来場ありがとうございました！
本と人、あたたかい出会い生まれた「図書室まつり」

10月31日、「図書室まつり」を開催。「古本リサイクル市」をはじめ、図書委員の「好き」「やりたい」を詰め込んだイベントとなりました。「よみきかせ」では、読み手に加えてピアノやマリンバ演奏のゲストもお迎えし、こどもも大人も一緒に絵本の世界を楽しみました。「今日はホクホクです」と本を手にとる来場者の方の姿に、私たちも嬉しい秋の一日となりました。イベント参加、古本提供など、たくさんの方にご協力いただき、感謝申し上げます。ありがとうございました！







①村内から寄せられた古本を無料で　②よみきかせ「めっきらもっきら　どおんどん」　③よみきかせの後、ピアノとわかなさんを囲んで　④こども向けの古本も並びました　⑤ステンドグラス風オリジナル栞が完成　⑥村内の読書家に聞いた「号泣本」特集　⑦ぎゅっと抱きしめたくなる林明子さんの絵本特集















図書室まつりのポスター

図書委員会 活動紹介

その1 『出張よみきかせ』
@夏和・鴨ノ尾まめってい会





7月13日、依頼を受け、初のよみきかせ出張にでかけました。まず詩を声に出して読み、楽しみました。お茶の時間もご一緒させていただき、その後、小川村誌より『みそか団子』、信州の民話『くめじばしものがたり』のお話の読み聞かせを行いました。楽しく、なつかしい時間となったようでよかったです。

その2 『としょかん勉強会』
@小川小学校





7月27日、小学生向けの夏のイベントを開催しました。夏休み期間中に小学校図書館を開放してもらえるということもあり、たくさんの子どもたちが参加してくれました。集まった子どもたちは、夏休みの宿題をすすめたり、読書を楽しんだり、それぞれのやりたいことに取り組みました。



その3 『よみきかせタイム』
@小川村公民館

6月から毎月第四土曜日に開催し、親子連れの方や民話が好きな方など、図書室に遊びに来ていただきました。物語の世界を一緒に楽しんだり、好きな本について話したりしながら「絵本っておもしろいかも」とあらためて感じる、実り多い時間となりました。今年度いっぱい継続する予定です。







工作コーナーで制作した「ひっかき絵」

図書委員のおすすめ漫画コラム



『ブッダ』　手塚治虫

夜の時間が長くなり、何かと物憂げになりがちなこの季節。そんな時におすすめしたい漫画が、手塚治虫の『ブッダ』です。

『ブッダ』は、約２５００年前のインドを舞台に、後に仏陀となるシッダールタの生涯を描いた漫画です。手塚治虫は、この作品を単なるブッダの伝記ではなく、人間の生き方を描く大河ドラマとして考えていました。そのため、仏典を参考にしながらも、作者独自の解釈やエンタメ要素をふんだんに取り入れた、「仏教ＳＦ」ともいえる作品になっています。

そこには、厳しい身分制度による差別や貧困、争い、愛や別れなど、さまざまな人間の苦しみや喜びが描かれています。２５００年前の物語でありながら、そこに描かれる人々の悩みや苦しみは、今を生きる私たちと決して無縁ではありません。

「人はなぜ生きるのか？　なぜ苦しむのか？」

そんな問いに、ブッダと共に向き合ってみてはいかがでしょうか。

図書室カレンダー



11～2月

11月17日(火) 出張読み聞かせ
@夏和・鴨ノ尾まめってい会

11月28日(土) よみきかせタイム
@図書室 10：00～11：00
＊12月19日(土)、1月23日(土)、2月27日(土)も開催

ブックスタート

『子どもに読んで聞かせたい本は？』

～生後6ヶ月の赤ちゃんへ　本のプレゼント～

令和８年２月生まれの赤ちゃん



水上（みずかみ）　庵（いおり）　くん

『星のカービィ　まるさんかくプププ』
新井洋行



守屋（もりや）　然（ぜん）　くん

『おまえうまそうだな』
みやにしたつや

「撮る村（そん）」

（2026年６月～９月撮影応募分）

多数のご応募ありがとうございました。
審査の結果以下２点を秋号の入選作品とさせていただきました！



「雲をのむ夕焼け」　　MOMO さん　（飯綱町）
（撮影場所：向清水坂、9月下旬撮影）



「紫陽花が迎える玄関」　　HIGEJI さん　（小川村）
（撮影場所：立屋、7月中旬撮影）

撮る村（そん）応募方法

①作品名　②撮影場所　③撮影時期（例：〇年〇月上旬）　④応募者氏名（ふりがな）を記載の上、メール（komin@vill.ogawa.nagano.jp）または、公民館へのデータ持ち込みにてご応募下さい。
※紙面に本名を掲載したくない場合は、ペンネームも併せてご記載ください。
　詳細は QR コードよりご覧ください。

春号の応募締め切り：令和９年２月１日（月）
撮影時期：令和８年10月～令和９年１月までに撮影された写真

旬をたっぷり味わう簡単レシピ

寒くなるにつれ甘みが増す白菜を、フライパンでこんがり焼くだけ。
シンプルなのに満足感のある簡単レシピです。

焼くだけでごちそう！ 白菜ステーキ



材料（作りやすい分量）

・白菜	1/4株(約300g)
・お好みの油	大さじ１
・塩	少々
・バター	10ｇ
・醤油	小さじ2
・黒コショウ	少々
・粉チーズ	適量

作り方

① 白菜は根本をつけたまま縦に切る

② フライパン（深めのものがおすすめ）に油を熱し、白菜に塩を振って、中火でこんがり両面に焼き色をつける

③ バターを加え、蓋をして弱火で５分ほど蒸し焼きにする

④ 醤油をまわしかけ、10 ～ 20秒焼き、黒コショウとお好みで粉チーズをふって出来上がり☆

ポイント

・じっくり焼いて焼き色をしっかり付けると、白菜の甘みがぐっと引き立ちます。

・お好みでにんにくを加えて焼いたり、醤油のかわりにお好きなソースをかけたり、色々なアレンジも楽しめます♪

“大根の葉っぱ”で彩りと栄養プラス＋

大根の葉には、ビタミンやカルシウムが含まれているので、さむ～い季節の栄養補給にぴったり！。



大根葉ふりかけ

・刻んだ葉を乾煎り

・かつお節＋しょうゆ＋白ごま

・砂糖ひとつまみで味がまとまる

焦げやすいので注意してくださいね。　（まつもとまゆ）

絵手紙教室



絵手紙教室　渡辺　綾子

小川村公民館一般公開講座のお知らせ（熟年大学共催）

令和８年11月28日（土）「音を魅く日本の美」（箏・ピアノ演奏 清水 範子氏、坂原 美菜氏）

令和８年12月 ６ 日（日）文化講演会「大丈夫だよがんばろう！」（講演会 山田 邦子氏）

令和８年12月13日（日）人権講演会「回復を助ける人になる」（講演会 清泉大学 岡本 かおり氏）

令和９年 １ 月16日（土）「新春お笑い講座」（信州大学お笑いサークル）

令和９年 １ 月30日（土）「憲法とは何か」（講演会 信州大学 成澤 孝人氏）

場所・時間は全て小川村公民館講堂（ホール）で時間：午後1時30分～午後3時の予定です。
詳細はお問い合わせください。

＊留め具に針金ではなく環境に配慮し、和紙のこよりを使った「和こよ綴じ」を採用しています。

館報おがわ（241号）　発行者：松本利光　編集者：三水　恵　令和８年11月12日発行　印刷：中外印刷㈱
小川村公民館／〒381-3302　長野県上水内郡小川村大字高府8695　TEL・FAX：026-269-2077　E-mail：konin@vill.ogawa.nagano.jp